



つるがしま里山サポートクラブ 通信

第7号
2022. 04. 01
発行責任者
小澤邦彦
編集責任者
杉山行江

高倉の森

理事 井上 富美

高倉の森は市民の森の中で最大の規模です。当クラブ活動記録によると、2003年当時は森の中にはとても人が入れる状態ではなく、下草刈りによる通路づくりから始め、順次広場作りを進めて行ったとの記録が残っています。今の森の風景からはとても想像できませんが、約20年に及ぶ大勢のみんなの森づくりの活動の成果が今私たちの目の前に広がっているのだと理解しています。里山サポートクラブの1年の始まりは、この広場のご神木にお神酒を捧げ、向こう1年の安全祈願する活動から始まります。広場を流れる飯盛川の清流復活大作戦は、この森に欠かせない重要な自然の恵みの保全活動の一環です。この川も当時は廃自転車や廃プラスチック等のゴミ捨て場状態であったと聞いています。今は、この川に蛍の餌となるカワニナを放流できるまでに至っており、ホタルが乱舞する川沿いの散策を夢見て今も継続して放流が進められています。その他、春夏秋冬、多岐に及ぶイベントがこの広場で若者たちを対象として積極的に開催されていますが、今後の活動のあり方として夢想していることを一つ触れて置きたいと思っています。私が小学生であった頃、村の共有林から風呂やかまど用の燃料を山から運ぶ手伝いをしていました。当時は、灯油バーナーを使っているお家が羨ましかったものです。あれから数十年が経過した今はどうなっているのでしょうか。遠い外国から化石燃料を輸入し続けた結果、里山も奥山も荒れ放題になっているのが現状です。何とか、地域の林を利活用したエネルギー自給率向上に向けた取り組みができないものかなと考えています。地球規模で課題となっている温暖化防止の活動です。鶴ヶ島市には山はありませんが、林はまだなんとか残っています。林が価値ある存在として再び日の目を見るのは、林が循環するカーボンニュートラルの取り組みこそ求められているのではないのでしょうか。エネルギーは遠くの油田や原発に依拠するのではなく、少しでも地産地消でのエネルギー調達を地域の活動としていく取り組みが求められているのではないかと考えています。

(3ページ下段へ続く)



御神木に注連縄を飾り、1年の活動の無事を祈る

森と仲間に生かされる

監事 松井 艶子

早いもので、市の広報の呼びかけで第4号市民の森（高德神社境内の隣）の整備活動に参加してから20年以上が経ちました。その当時、夫は67歳迄勤めた会社を退職し家の中にいる時間が多くなったので二人で参加しました。その整備活動の参加者たちが作った会が里山サポートクラブです。その後、里山クラブは高倉の森（第6号市民の森）の整備活動に取り組み、夫は楽しく参加していました。当時の高倉の森は樹木と雑草が生い茂り、加えて洗濯機、冷蔵庫、テレビ等の捨て場になっていました。それらの搬出に自分のワゴン車を持ち込み、現在の飯盛川に架かる橋に至る迄に2年近く掛かりました。伐採した木を使って一晩中炭焼きの番をしたこともありました。次第に森に市民が散歩に訪れるようになってから、森の中を巡ってのミニクロスカントリーレースの開催を夫が提案したところ、代表はじめメンバーがその気になってコースを整備してくれて大会を開きました。その他にも沢山の楽しい思い出を胸に夫は2014年81歳で亡くなりました。私も78歳の時に刈り払い機の講習を受け、今でも皆さんと一緒に森の草を刈っています。活動日には迎えに来てくれる仲間もいます。森の中で仲間に会うと元気を貰えるのです。



1月～3月の主な活動

新年最初の行事は、高倉の森の2本のご神木に注連縄を飾り1年の安全祈願をしました。注連縄は10人掛けで作成です。木工教室ではチェーンソーの刃研ぎ講習です。

2月は五味ヶ谷の森、藤金の森の整備、挿し木から2年掛けて育てた小彼岸桜の根巻作業です。この桜は4月に太田ヶ谷の森に植えます。市の要請で見上げるような大木の伐採も行いました。

3月は藤金の森で里山体験会を開き、多くの親子に里山の中で自然の恵みを体験して頂きました。新たな活動の場、太田ヶ谷の森の整備作業も増えました。毛呂山の里山体験会の応援も行いました。



1月～3月 実施

- 1/05(水) 高倉市民の森整備と新年会
- 1/16(日) 木工教室及び倉庫整理
- 2/05(土) 五味ヶ谷市民の森、竹林&林整備
- 2/16(水) 小彼岸桜根巻作業
- 2/26(土) 藤金市民の竹林と森内の整備
- 3/05(土) 藤金里山体験会
- 3/12(土) 太田ヶ谷の森整備
- 3/23(水) 小彼岸桜の移植
- 3/26(土) 里山ホーククラブ もろやまのプレーパーク応援

4月～6月 計画

- 4/06(水) 太田ヶ谷の森へ小彼岸桜移植
- 4/09(土) 東市民センター祭りに参加
- 4/16(土) 五味ヶ谷の森整備
- 4/23(土)、5/05 親子でタケノコ掘り体験
- 5/11(水) 小彼岸桜新芽採取
- 5/15(土) 大谷川クリーン大作戦
- 5/28(土) 飯盛川清流復活大作戦
- 6/11(土) 高倉市民の森里山体験会
- 6/15(水) 藤金市民の森整備
- 6/25(土) 太田ヶ谷の森整備

藤小の里山学習

理事 吉井 優

藤小学校の自然支援は、2016年6月より始まりました。2016年に藤小に就任した向出校長の提案により、藤小の3年生の総合学習テーマで、身近な藤金市民の森を使った自然体験学習の指導を依頼されました。自然学習では、森の紹介と案内を行い、気軽に遊べる身近な森であることをアピールしました。この時自然学習に参加した児童が2020年に藤中の生徒となり、藤金市民の森ボランティア体験会に参加し、森の整備を手伝ってくれて、嬉しかったです。

2017年からは、年3、4回の開催となりました。そこで、大谷川での魚とり体験、昆虫採取体験、樹木の名前覚え体験、竹細工体験、ハンモック体験などを行いました。どのプログラムでも、参加児童にとっては初体験になることが多く、目を輝かせて真剣に取り組む姿に、教えがいを感じています。

2017年以後で特記すべきことは、毎秋に行われる学習発表会です。通常教室で行われる発表会を、市民の森で行います。5名くらいのチームに分かれ、蛍、川魚、カナヘビ、森の遊びなど、いろいろなテーマについて図書館やネットなどで調べ、発表するものです。父兄や、学習関係者、地域の方々も見学対象です。見学に参加した父兄は、子供たちの発表を聞いて我が子の成長した姿に感激している方々がほとんどです。

なお、向田校長が栄小学校に移籍したためか、栄小学校でも2年間五味ヶ谷市民の森を会場に野外体験学習を、実施しました。市民の森が近くにある小学校では、同じような野外学習を行うと、鶴ヶ島の自然環境を授業を通して身近に感じることができます。また小学校の大切な思い出になることもあるでしょう。このような授業が、他の小学校でも広がっていくことを願っています。



つるがしま里山サポートクラブの設立までの思い出(2) 小澤 邦彦

ここ数年はコロナ禍で社会は混乱していますが、つるがしま里山サポートクラブが設立された 2003 年も感染症で混乱していました。中国各地で重症急性呼吸器症候群 (SARS) が流行し、日本国内においても旅行のキャンセルが相次ぐなど混乱、社会は不安に揺れた年でした。

環境に対する市民活動として、世界では初めての 1000 万人キャンドルナイトが開催された年でもありました。2005 年 NPO 法人つるがしま里山サポートクラブでも、キャンドルナイトのイベントを市民の森で取り組みました。

当時は、NPO 法ができ、自然保全活動など市民活動が話題となり、企業の取り組みも増えて来た時代で、民有地の樹林地等の緑地保全に関する「市民管理制度」の創設等の施策が行なわれた時代でした。いち早く対応したのが鶴ヶ島市でした。この制度の初期に認定され、今も国交省のホームページに「太田ヶ谷市民の森」が掲載されています。

つるがしま里山サポートクラブが設立された年に、県に「里の山守制度」が創設され、鶴ヶ島市の「五味ヶ谷市民の森」が最初に補助対象として指定されました。これを契機に活動を継続させる組織として NPO の認定を受けることとし、2005 年(平成 17 年)12 月 28 日に NPO 法人の認定を受けました。当時は、市民+行政+企業による環境保全活動を目指しました。地元の企業の方々のご支援を頂、(パイオニア、大日本印刷、市民の皆様)、セブンイレブン、県の「里の山守制度」の補助と合わせて活動に必要な機材を備えることができました。設立時に必要な体制が調えられ、活動をスタートすることとなりました。

2022 年は 18 期、クラブ設立から 20 年目となります。この期間、関係各機関の皆様や市民の皆様の支援をいただいたことや会員皆様の取組みがあったことによると感謝しています。



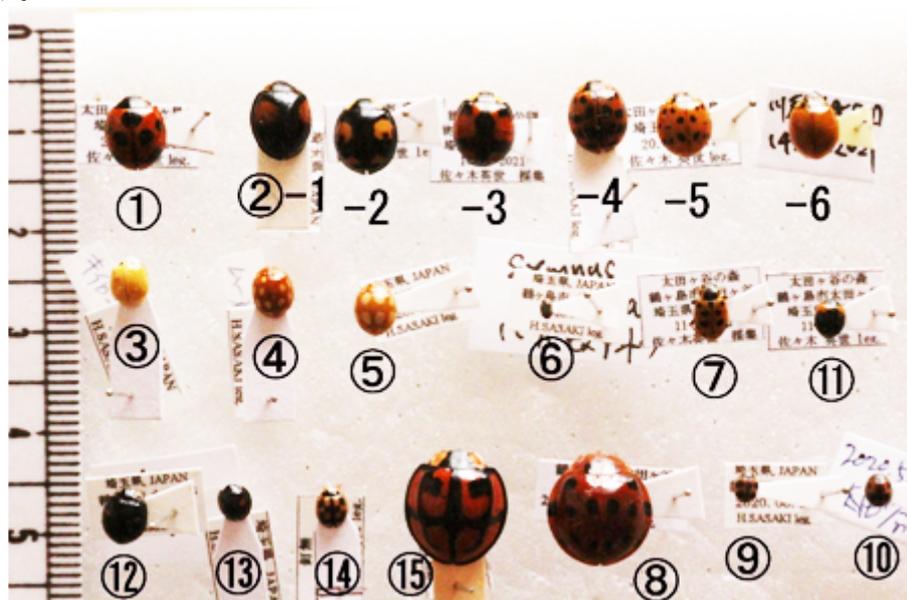
(1 頁目からの続き)

人は、持つべきものはお金でなく第一に人とのかつらやかなきずな、第二に自然とのつながり。この思いで里山サポートクラブと関わり続けています。

(補足) その他、地域での摂取カロリーベースの回復への取り組み (農業) や、地域防災の観点からも身近な林に隣接した誰でも利用できる井戸の設置などご当地新町の人々と協同してできないものかなと考えています。鶏を飼う、だれでも利用できる果樹園 (柿やブルーベリー、ラズベリー等) づくり。森に隣接した畑を活用した芋の栽培や焼き芋イベントのイメージもあります。地域の林や畑は、町の恋人になれるでしょうか。松井さんのご主人がこだわった炭焼きは復活を！

今回はテントウムシのお話です。皆さんが良く知るテントウムシにはどんなものがあるでしょうか？公園などでよく見るのが**赤い体に黒い斑点が7個あるナナホシテントウ①**と**黒い体に赤い斑点が2個のナミテントウ②-1**でしょうか。テントウムシは派手な色彩をしているものが多いのですが、これは**警戒色**と呼ばれます。ナミテントウには斑点が2つだけでなく**様々な斑紋の表現②-2~6**がありますがこれは**遺伝的斑紋多系**といって、北の地方に行くほど赤い型が多くなるといわれています。また違った種類で似通った斑紋をした種類が多いのは“**食べても不味いぞ**”ということをお互いに強調し合っている（**ミューラー擬態**といいます）のです。さあ！身近な公園に観察に出かけて見ましょう。園内の草木など植物を注意深く観察してみてください。小さかったり色や斑点の数が違うなど、今まで見過ごしていたテントウムシたちに出会えるはずですよ。黄色っぽい種類には**キイロテントウ③**、**ムアシロトホシテントウ④**、**シロホシテントウ⑤**が混ざっていたりします。運動公園の池の水際のガマには**ババヒメテントウ⑥**という極小種がいます。大きさが2mmくらいなのでルーペ（百均のもので十分）で拡大して見てください。ススキが生えているような所では運がよければ**ジュウサンホシテントウ⑦**に会えるかもしれません。目が慣れてくると**マクガタテントウ⑪**・**クリサキテントウ⑫**・**ヒメアカホシテントウ⑬**・**ヒメカメノコテントウ⑭**・**カメノコテントウ⑮**なども見つかるでしょう。

最後に最近のテントウムシの**ニューフェイス 2種類**について解説します。**ハラグロオオテントウ⑧**はもともと日本の暖かい地方にいた南方種ですが、だんだんと北上してきて2021年には鶴ヶ島にも来てしまいました。幼虫も成虫もクワキジラミというクワの木につくウンカのようなムシを食べます。幼虫は最大で2cmくらいのおおきさになり、成虫でも1.3mm（ナナホシテントウの倍くらい）ある**大型な種類**です。



野外でオレンジ色に黒い斑紋がある大きなテントウを見たら注意して観察してみてください。

もう一種は**モンクチビルテントウ⑨**で1998年に沖縄で初めて確認された後、九州を経て日本各地へ分布を広げている**外来種**です。埼玉県には2018年ごろ入ってきたらしく、鶴ヶ島市でも2018年9月に採集されましたが、翌年は4月に採集できてしまったので、おそらく越冬して繁殖可能であると思われます。当地には**近縁在来種**の**ヨツボシテントウ⑩**もいますがモンクチビルテントウが入ってからは数を減らしているようで、**生態的地位から考えても両種の競合が懸念される**ところです。

「佐々木英世：鶴ヶ島の自然を守る会・ 埼玉昆虫談話会」

編集後記

太田ヶ谷の森ができてクラブの活動範囲が広がりました。広い敷地を整備し、植樹をしたり、枯れて仁王立ちの樹木を伐採したりしています。直径60cm程になると40cmの輪切りにしても転がすのも大変です。それらを一ヶ所に集めました。その内に昆虫の森になるのが楽しみです。里山での自然体験が増えました。皆さんも一緒に森で汗を流しませんか。

ホームページ：<http://www.satoyamasupport.com/>